

## 雑誌購読料金の計量的分析 2005年版

—価格，掲載論文数，Impact Factor 値，所蔵館数，出版元の分析を通して—

城山泰彦  
順天堂大学図書館

### I. 【はじめに】

「雑誌は値上がりに値する内容を維持しているのか?」という率直な疑問を解くために、昨年行った調査<sup>1)</sup>では、雑誌購読料金の値上がりと各項目との関連について、計量的な分析・考察を行いました。その結果、予想以上の割高感が浮き彫りとなりました。

今回の調査では、雑誌購読料金の値上がりについて、引き続き計量的な検証を行いました。そして急激に変化している雑誌の傾向をより具体的に掴むために、前回から調査対象年を拡大し、新たな視点からの調査項目を追加しました。

### II. 【調査方法・調査項目】

当館継続購読誌の中から、364 タイトルを調査対象としました。(2004 年当館継続購読 567 誌中 64.2%に相当) 下記の項目について、前回の調査から最新データ 1 年分と 1995～1996 年の 2 年分の 3 年分(雑誌発行元は 1995～2003 年の 9 年分)を追加調査しました。

- 雑誌購読料金 (当館購読料金 1995～2005 年の 11 年分)
- 掲載論文数 (JCR 1995～2003 年版の 9 年分)  
→購読料金と論文数から算出した論文単価 (1995～2003 年の 9 年分)
- Impact Factor 値 (JCR 1995～2003 年版の 9 年分)
- 所蔵館数 (現行医学雑誌所在目録 1995～2005 年版の 11 年分)
- 雑誌発行元の出版社・学会 (1995 年から 2004 年までの 10 年分)

### III. 【調査結果】

1995 年から最新年までの約 10 年間のデータを比較した結果、雑誌購読料金の 239%という大幅な値上がりに対して、掲載論文数は 102%とわずかに増加、Impact Factor 値は 115%に増加していた一方で、所蔵館数は 63%と大幅に減少していました。これは昨年の調査結果よりも、顕著な結果となっていました。また、調査期間中に雑誌の発行元が変更になっていた雑誌について、出版社変更や出版社統合などのパターン別に、価格や掲載論文数などの各項目に、どのような変化が起きているのかを調査しました。

今回の調査により明らかになった点を踏まえて、医学系雑誌に予想される今後の傾向について、考察していきたいと思えます。

#### 【参考文献】

- 1) 城山泰彦. 雑誌購読料金の計量的分析: 掲載論文数, Impact Factor 値, 所蔵館数などの分析を通して. 医学図書館 2005;52(1)66-71.